

<福島県知事賞優秀賞>

税について「考える」

田村市立大越中学校

3年 はしもと 橋本 わたる 航

「消費税増税」最近のニュースや新聞でよく聞く言葉だ。しかし、僕は今まで税について深く考えたことはなかった。世間では、増税だ、やれ反対だと騒がれているが、自分は意見を持つことさえもできないでいた。しかし、公民の授業で、個人は社会的存在の一員であることを学んだ。ならば、自分も社会のことについて、そして税について知るべきなのではないかと思った。増税の理由、それがもたらす影響、そして本当に必要なことなのか。この三つについて考えたいと思う。

まず、なぜ増税する必要があるのかと考えた。「税は政府の収入源だ。」と父から聞いたことがある。身の周りにも、税で賄われているものは数多くある。これも税による収入のおかげだ。では、なぜ最近になって増税する必要があるのか。財務省のホームページには、概ね次のようなことが書いてあった。

「現在の少子高齢社会において、国民全体で負担し、安定した税収を保つことのできる消費税こそが、社会保障の財源に相応しい。」

このまま高齢化が進むと、高齢者一人を、現役世代の人一人が支える形になると聞いたことがある。この大きな負担を分担しようというのが今回の増税の大きな目的らしい。今僕が住んでいる地域も、高齢者が多い。今は、みんな農作業をしている姿をよく見かけるが、数年後にはどうなるかわからない。働くことが難しくなり、介護も必要になるかもしれない。そんな状況になった時、消費税によって助けてあげることができる。

しかし、僕は消費税がもたらす影響の負の側面も知った。増税は、高齢者の負担を減らしてあげることができる。そして、それは即ち現役世代の人達の負担を増やすということでもある。現役世代の中にも、いろいろな人がいる。正直、増税してしまうと生活が苦しくなるという人もいるだろう。消費税は、そんな人達にも見境なく降りかかって

くる税だといえるだろう。果たして、高齢者の負担を減らすために、他の苦しい人々の負担を増やすということは、良いことなのだろうか。

「デフレの中で消費税をあげたところで、需要が減り、結局は税収が減るだけだ。」という意見をよく聞く。同じ理由で、逆に消費税を下げるべきだという意見さえもある。しかし、消費税を下げてしまったら、肝心な高齢者福祉はどうなってしまうのだろうか。

増税が必要なのか。僕には断定することはできない。テレビ・インターネット・新聞、どのメディアを見ても様々な意見が飛びかっている。どれが本当の正解なのか。ある意味では、それらは全て正解だと思う。決まった答えのない問題。増税のようなこの問題を解くには、一人一人の貴重な意見こそが答えなのだと思う。まだ中学生だから。そんな言い訳はもう捨てよう。自分の意見をしっかり持とう。自分も、日本という国を支える社会的存在の一人なのだから。